



南アフリカ共和国 Republic of South Africa



たばこ産業の特徴

1. 年間消費市場規模は約270億本、年間のシガレット製造数量は約295億本。
2. 増税のために、1990年代初めと比較するとシガレットの消費量は約1/3減少している。
3. BATの製品が市場の94%を占めている。
4. 主なブランドはPeter Stuyvesant、Rothmans、Benson & Hedgesなど。
5. 税率はアフリカ大陸で一番高い。
6. 政府による反喫煙政策が厳しくなりつつある。
7. アフリカ大陸第3位の葉たばこ生産国。生産原料は主に国内消費用である。

[1] 法規制

健康注意表示：

全てのシガレット包かの横に「喫煙は健康のリスクになる」を表示しなければならない。
 タールとニコチン含有量を包かの横に記載しなければならない。
 包かの健康注意表示部分に喫煙に伴う病気を絵や写真で表示することを検討中。

タール等規制：

保健相がタールや他の成分の最大含有量を決める権限を持っている。
 2001年12月からタール・イールド15mg以下、ニコチン1.5mg以下に定められた。
 2006年6月1日までにこれらの最大含有量は更に12mgと1.2mgに下げられる。

喫煙規制：

職場を含む公共の場所では全面的に喫煙禁止(1998年11月に制定)。

販売規制：

16歳未満には販売禁止。
 自動販売機の禁止、シガレット販売の最低年齢を16歳から18歳に引き上げることを検討中。

広告規制：

職場を含めて全ての公共の場所での広告は禁止。
 2010年のワールド・カップ・トーナメント開催のチャンスを高めることを目的として、南アフリカ・フットボール協会(BATがスポンサー)は2001年にたばこ広告を禁止している。
 「ライト」、「マイルド」、「低タール」などの文言使用禁止を検討中。

(反喫煙運動の動向)

南アフリカ共和国は2003年6月16日にFCTC(たばこ規制枠組み条約)の最初の署名国の一つになった。
 NGOも反喫煙の態度をとっている。

[2] 税制

南アフリカのシガレット税は二つの方法で徴収されている。
 製品に課税される付加価値税と特別物品税であり、特別物品税は製品単位に課税されるものであり、製品価格には2003年に増税されて、従価税と物品税は10本当たり194.25セント(2002年までは175.4セント)。
 現在の税金は1991年当時に比べて600%も高くなっている。

シガレット関税は45%。

小売り価格に対する税金の割合 38% (1999年：アフリカ大陸では最高)

[3] 喫煙者プロフィール

15歳以上の1人年間喫煙本数	169包か (2001年)
喫煙者率	27% (世界銀行推定)

[4] 市場概要

- 年間消費市場規模は約270億本(2002年)、年間製造数量は295億本(1999年)である。
- 南アフリカのシガレット市場はBAT South Africaが支配している。
シガレット市場の94%のシェアを占めている。
- 刻み、パイプたばこ、噛みたばこ、嗅ぎたばこの市場があり、主に低所得者層向けであるが、過去数年所得が増えたためにこれらの製品の消費は減っており、消費はシガレットに向かっている。
- 増税がシガレット販売に影響を与えており、1990年代初めと比較するとシガレットの消費量は約1/3減少している。
- 1993年で年間一人当たり喫煙本数は223包かであったが、2001年の調査によれば、169包かに減っている。
- 税金の高い他の諸国と同じように南アフリカでも密輸が問題になっている。

シガレット統計データ

(単位 100万本)

	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
製造数量	36,518	31,985	30,501	29,500	na
輸出数量	1,481	49	62	70	na
輸入数量	987	652	643	570	na

[5] 製品概要

主なブランド:

シガレットPeter Stuyvesant, Chesterfield, Rothmans, Lexington, Benson & Hedges,

葉巻:

Ritmeester, Henry Wintermans, Tampa Sweet, King Edward, Williger,

[6] 企業概要

BAT South Africa:

南アフリカ共和国の2大シガレット・メーカーRothmansとUnited Tobacco(両社共にBATの子会社)が合併した会社。

シガレット市場の94%のシェアを占めており、主なブランドはPeter Stuyvesant, Rothmans, Lucky Strike, Dunhill。

ウエスタン・ケープのパールとガウテングのハイデルベルグの2ヶ所に工場がある。

JTI:

JTI(旧RJRI)は1988年に南アフリカで設立され、CamelとWinstonを販売している。2002年のシェアは4.5%。

MSM:

独立系メーカー。シェアは1%。

Swedish Match:

1999年に嗅ぎたばこパイプたばこメーカーのLeonard Dingler社を買収して南アフリカ市場へ参入した。

2000年にケープタウンのBrasant Enterprisesを買収して拡大を続けている。

Brasant Enterprisesは葉巻、パイプたばこ、マッチ、ライターの大手流通業者である。

2001年初めにSwedish Match社は、BATの南アフリカにおけるパイプたばこ事業を買収した。

[7] 葉たばこ概要

南アフリカ共和国は、アフリカ大陸ではジンバブエ、ザンビアに次いで第3位の生産量であるが、葉たばこ生産は国内市場への供給のために行われており、過剰生産分が輸出に向けられている。

USDAによれば、2003年の葉たばこ生産量は2万6,400トンで、前年に比べてやや減少している。約2万2,000トンが黄色種、残りは主にエアキュアードである。

原料葉たばこの消費数量は約3万1,500トンであるが、政府の反喫煙政策のためにやや減りつつある。

栽培地はノーザンプロビンス、ムブマランガ、ノースウエスト、イースタンケープ、ウエスタン・ケープ。

栽培地は非常に乾燥しているためにバーレー葉の品質が悪く、そのために1990年代初めにバーレー葉の生産を中止し、オリエント葉も最近栽培を放棄した。

たばこ産業の自由化により生産者は協同組合を通じて売り渡す必要はなく、直接たばこメーカーへ売ることができる。

葉たばこ輸入は減っておらず2001年には1万8,830トンに達した。

しかし2002年には2万5,715トンに急増している。黄色種はジンバブエ、バーレー葉はマラウイから輸入されている。

これらの輸入は長期協定により無税で入ってくる。

2002年の輸出は1万8,919トン。

これらの輸入原料は、いくつかのブランドで国内産葉とブレンドして使われる。

630戸の登録農家が1万4,000ヘクタールでたばこを栽培している。たばこ栽培で4.6万人の労働者が従事しており、これは農業従事者の24%を占めている。

葉たばこ統計データ

(出典USDA, 単位トン)

	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
生産量	20,936	26,417	31,493	31,399	na
輸出量	6,770	12,140	14,210	15,345	15,500
輸入量	20,799	14,794	22,597	20,300	20,200